

2014年5月4日

ブライアン・ブルエット牧師

クリスチャン経済における七本の矢

導入

ナンシーと私を暖かく迎え入れてくださり、ありがとうございます。また、臨時牧師の務めを託してくださった役員に感謝いたします。この3カ月で牧師が2度も変わり、私が3人目となりますが、このような過渡期に教会として機能していけるよう神が助けてくださるでしょう。私は課せられた使命を喜んで受け入れます。私は過去に1,000回以上メッセージを取り次いだ経験があり、そのすべてをファイルとして残してきました。けれども、日本に来る前にすべて捨てました。心新たにし、神が心に示してくださったことをそのままお届けしたいと思っています。私が目指すのは、この教会が神の愛を体験できる場所、愛されていると感じられる場所となるようお手伝いすることです。教会に来るだけでは十分ではありません。私たちが教会とならなければならないのです。今日から、「クリスチャン経済における七本の矢」と題して7回のシリーズメッセージを始めます。

皆さん想像してみてください。誰もが何かに関わり、誰もが歓迎され、体の一部となっていく健全な教会を想像してください。すべてにおいて神が称えられる教会を想像してください。また、ここに集う人々でいっぱい教会を想像してください。これらのことが実現するための土台を築いていくなら、私たちの教会は聖書の教えに根差したキリスト中心の教会となるでしょう。七本の矢にたとえて、先ほど想像した教会の姿となるには何が必要かを見出したいと思います。なぜ矢なのでしょう。これは聖書に則っています。

イザヤ書 49:2,3

49:2 主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私を隠し、私をとぎすました矢として、矢筒の中に私を隠した。

49:3 そして、私に仰せられた。「あなたはわたしのしもべ、イスラエル。わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」

ここにあるイスラエルという単語はイエスを指します。矢筒の中にある矢は、神のみこころにかなう教会に見られる七つの特徴を示します。このみことばは預言であり、ここにある矢筒の矢は、後のイエスの教えです。その教えは、神を称える教会とはどのようなものかを示します。

第一の矢：祈りの価値と必要性

歴代誌第二 7:14

7:14 わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。

祈りの価値を理解するために役立つみことばをもうひとつ挙げましょう。

詩篇 55:1

55:1 神よ。私の祈りを耳に入れ、私の切なる願いから、身を隠さないでください。

祈れることは素晴らしい特権です。神は御座への扉を開き、私たちが御側へと招き入れてくださいます。

ヘブル 4:16

4:16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

神はみこころのままに、私たちの祈りを聞いて応えてくださると約束してくださいました。

ヨハネ第一 5:14,15

5:14 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。5:15 私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでになえられたと知るのです。

誰も知らないところで一人、神のご臨在の前に出て祈るのは、非常に特別なひとときです。私たちはそのような時を十分に持っているでしょうか。今日の聖書箇所は使徒 12:1-16 です。

団結した祈りには力があります。この箇所には、多くの人が信仰と目的の一致をもって祈る時に特別な力が働くことが表されています。では、読んでいきましょう。

使徒 12:1-5

12:1 そのころ、ヘロデ王は、教会の中のある人々を苦しめようとして、その手を伸ばし、12:2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。12:3 それがユダヤ人の気に入ったのを見て、次にはペテロをも捕らえにかかった。それは、種なしパンの祝いの時期であった。12:4 ヘロデはペテロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。それは、過越の祭りの後に、民の前に引き出す考えであったからである。12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。教会は彼のために、神に熱心に祈り続けていた。

教会に対する攻撃が激しい困難の時代でした。ヨハネの兄弟ヤコブは、ヘロデの手によって殺されました。ペテロは投獄され、処刑を待つ身です。教会の存続が危ぶまれる状況でした。ヘロデやユダヤ教徒といった敵がいたことも事実ですが、本当の敵は常にサタンです。サタンは教会を憎んでいます。私たちが福音を宣べ伝えたり、神を礼拝したりするのを嫌います。

ペテロ第一 5:8

5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

教会は、恐れをなして逃げたりしませんでした。むしろ、行動を起こしました。声を一つにして祈りを捧げたのです。私たちが教会の体としてこのような祈りをささげらるべきだと思います。では、どのような祈りだったのでしょう。今日は四つの側面からこの祈りを説明します。

#1 熱心な祈り

使徒 12:5

12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。教会は彼のために、神に**熱心**に祈り続けていた。

5節には、教会は熱心に祈り続けたとあります。祈りが働くと大きな力があると語るヤコブ 5:16 のみことばが思い浮かびます。熱心にささげられた祈りが働くと大きな力があります。教会の人々は一生懸命神に心を注ぎだしていました。

皆さん、マカロニと祈りに共通点があることにお気づきでしょうか。これを聞いて驚いた方もいらっしゃるでしょう。マカロニを調理したことがありますか。マカロニを調理するには、まずお湯を沸かしてマカロニを入れ、7分ほど茹でます。お湯を沸かさずに冷水でマカロニを茹でようとしたことはありませんか。どうなるでしょう。ちゃんとできません。マカロニと祈りは似ています。祈りも熱で沸き立つ必要があるからです。マカロニを茹でるお湯もぐらぐらと湧いて熱くなければなりません。私たちの祈りが冷水のようなら、神は私たちを遠くに感じられるでしょう。

#2 信仰の祈り

使徒 12:5

12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。教会は彼のために、**神**に熱心に祈り続けていた。

彼らは神に信仰を持って祈りました。時に私たちは、人に聞かれることを意識した祈りをしてしまいます。教会の中には、うまく祈れないからといって祈らない人もいますが、神は私たちの肉声ではなく心の声に耳を傾けてくださいます。答えられる祈りとそうでない祈りを分かつ要素は信仰だと私は信じます。私たちの祈りは聖霊をとおして100%神に届きます。私たちが祈るとき、それは天の父に話しかけているのです。

ローマ 8:26

8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。

#3 焦点を絞った祈り

使徒 12:5

12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。教会は彼のために、神に熱心に祈り続けていた。

教会は何のために祈っていたのでしょうか。ペテロが釈放されるよう祈っています。漠然とした祈りではありません。そのような祈りがふさわしい場面もありますが、彼らの祈りは具体的なものでした。内容は言えないけれど祈ってほしいと言われるのは、私は苦手です。何について祈っているのか自分でわかっておきたいからです。聖書の中で、内容は言えないけれど祈ってほしいという依頼はどこにもないと思います。

#4 家族の祈り

使徒 12:5

12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。**教会**は彼のために、神に熱心に祈り続けていた。

教会は皆集まって、自分たちの身内のために祈っていました。兄弟を神が助けてくださるよう祈っていました。心をひとつにし、手に手を取って祈りました。団結した祈りの基となる構成要素は一個人です。ひとりで祈らないなら、皆で集まって祈ることもしないでしょう。個人の祈りが家族の祈りへと発展します。私の場合、家族はナンシーと私のふたりだけです。結婚は新婚初夜に完成されると思っている人が多いようですが、男と女の結婚が完成するのは、ふたりがともに祈る時です。では、今日の個所の残りを読みましょう。

使徒 12:6-16

12:6 ところでヘロデが彼を引き出そうとしていた日の前夜、ペテロは二本の鎖につながれてふたりの兵士の間で寝ており、戸口には番兵たちが牢を監視していた。12:7 すると突然、主の御使いが現れ、光が牢を照らした。御使いはペテロのわき腹をたたいて彼を起こし、「急いで立ち上がりなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から落ちた。12:8 そして御使いが、「帯を締めて、くつをはきなさい」と言うので、彼はそのとおりにした。すると、「上着を着て、私について来なさい」と言った。12:9 そこで、外に出て、御使いについて行った。彼には御使いのしている事が現実の事だとはわからず、幻を見ているのだと思われた。12:10 彼らが、第一、第二の衛所を通り、町に通じる鉄の門まで来ると、門がひとりでに開いた。そこで、彼らは外に出て、ある通りを進んで行くと、御使いは、たちまち彼を離れた。12:11 そのとき、ペテロは我に返って言った。「今、確かにわかった。主は御使いを遣わして、ヘロデの手から、また、ユダヤ人たちが待ち構えていたすべての災いから、私を救い出してくださったのだ。」12:12 こうとわかったので、ペテロは、マルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家へ行った。そこに

は大ぜいの人が集まって、祈っていた。12:13 彼が入口の戸をたたくと、ロダという女中が応対に出て来た。12:14 ところが、ペテロの声だとわかると、喜びのあまり門をあけもしないで、奥へ駆け込み、ペテロが門の外に立っていることをみなに知らせた。12:15 彼らは、「あなたは気が狂っているのだ」と言ったが、彼女はほんとうだと言い張った。そこで彼らは、「それは彼の御使いだ」と言っていた。12:16 しかし、ペテロはたたき続けていた。彼らが門をあけると、そこにペテロがいたので、非常に驚いた。

御使いがペテロを起こしました。鎖が解け、御使いはペテロに上着を着て早く牢を出るように言いました。皆が祈っている場所にペテロが到着すると、ロダが戸口で応対します。そして祈っている人たちのもとに戻っていき、ペテロが門の外に立っていると伝えました。中には、信じられずに幽霊だと思う人もいました。ペテロは奇跡的な方法で牢獄から逃げ出しました。その祈祷会にいた人たちはきっと大いに喜んだことでしょう。

私たちの祈りを妨げるものは何でしょう。いくつか挙げてみましょう。

1. 正しい生き方をしていない。

神は正しい者の祈りを聞いてくださいます。

箴言 15:29

15:29 【主】は悪者から遠ざかり、正しい者の祈りを聞かれる。

私たちはきよい心で神の御前に出なければなりません。ヨハネ第一 1:9 は、私たちの生き方についての大切なみことばです。

私たちの祈りを妨げるものとしてもうひとつ挙げられるのは、

2. 赦さないという心

マタイ 6:14

6:14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。

誰かに対する恨みを募らせていると、それは祈りの妨げとなります。相手に対して仕返しを考えている場合もあるかもしれません。けれども、復讐は神のものであると神はおっしゃいます。車のバンパーに「怒らないけど仕返しはさせてもらおう」という意味の文句が書かれたステッカーが貼ってあるのを見かけたことがあります。これはサタンがつくりだしたものです。他にも祈りを妨げるものがあります。

3. 神を最優先としていないとき

表面的には偶像に見えなくても、神との関係以上に大切にしているものがあれば、それは神とのつながりを妨げることとなります。

エゼキエル書 14:3

14:3 人の子よ。これらの者たちは、自分たちの偶像を心の中に秘め、自分たちを不義に引き込むものを、顔の前に置いている。わたしは、どうして彼らの願いを聞いてやれようか。

結び

今後私たちは、クリスチャン経済における七本の矢について学び、教会を建て上げる手段としてこれらを用いたいと願います。その中で、祈りは健全な教会にとって不可欠な要素であると信じます。では、祈りましょう。